



ファーストタッチとバトンタッチ

評者 | 笠井正志 兵庫県立こども病院 感染症内科 部長

「ファーストタッチ」というネーミングはとても深い。最初に診る医師の印象や診断は、次の医師（セカンドタッチ医）にとってはとてもパワフルである。かつて筆者が若手小児科上級医であった頃、ローテーション中の初期研修医から「かぜにしては、呼吸が変です」と相談され、見た目の状態は割とよかった心筋炎の乳児症例を思い出す。また、長じて感染症専門医として、あとから診る医師（セカンドタッチ／サードタッチ医）になってからも、初診医（コンサルトしてくださる医師）の診療レベルが極めて重要であることを実感している。

子どもにとっては、ひょっとしたら親・親戚以外でファーストタッチする大人が医療者かもしれない。初めて子どもを病院に連れていく時、親御さんも医療の世界へファーストタッチすることとなる。その時に信頼できる大人や医療者に会えるかどうかで、その後の他者への信頼感や子育てへの安心感が変わってくる。小児医療へのファーストタッチは未来を変えることができる。

医療のバトンタッチにも教育のバトンタッチにも

本書は、文章も構成も美しく、丁寧にわかりやすく記載されているのに、漏れがない。小児医療に慣れていない人にも理解できる大変読者フレンドリーな実践本である。この本さえあれば、非小児科医であっても今日からすぐに外来や病棟で診られると言っても過言ではない。また、2020年度から臨床研修制度が変更され、小児科が選択から「必修」になる。すべての医師の小児科へのファーストタッチ。何事も最初が大事で、小児科の印象を決める重要な教育機会になる。小児科嫌いの臨床医を出さないためにも、病院小児科医は初期研修医への教え方を、ぜひ本書で学び直してほしい。

医療は「バトンタッチ」である。ファースト（外来、救急）で診たあと、セカンド（次の日、上級医、入院、専門外来など）、そしてサード（高次医療、専門医療など）へとつながっていく。さあ、小児医療の最初のバトンを持つ初期研修医諸君、総合診療医の先生方、『ファーストタッチ』を持って子どもにファーストタッチし、命のバトンをつなごう！

G



初期研修医・
総合診療医のための
**小児科
ファーストタッチ**

岡本光宏=著

定価：本体¥4,000＋税
B6 変・428 頁／じほう／2019
[ISBN978-4-8407-5176-6]